

Brown Bag Seminar No. 222

2026

2.18(水)

12:10
12:5012:10-12:15
12:15-12:40
12:40-12:50

- ◆発表者紹介
- ◆プレゼン
- ◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_MD1mcXR_TwSQinfEaeHWVg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

柔道療育の体系化 —柔道を通した発達支援とは—

3 すべての人に
健康と福祉を4 質の高い教育を
みんなに10 人や国の不平等
をなくそう16 平和と公正を
すべての人に17 パートナーシップで
目標を達成しよう

Key Words

柔道

武道

発達支援

スポーツ療育

アダプティッドスポーツ

小崎 亮輔 講師

鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系

1990年埼玉県出身、10歳より講道館柔道に取り組み、現在五段を取得しています。順天堂大学大学院博士後期課程を修了し、2018年3月に博士(スポーツ健康科学)を取得しました。その後は順天堂大学非常勤助教等を経て、2021年4月に鹿屋体育大学スポーツ・武道実践科学系に着任しました。現在は同大柔道部監督も務めています。大学院在学中には、NPO法人 judo3.0を共同で創業しました。当該法人は、柔道を通した国際交流に加え、神経発達症やその特性のある子供への指導方法や支援に関する講習会を企画、運営する事業を展開しています。現在は、柔道を通した発達支援活動である「柔道療育」の体系化を主要な研究テーマとして取り組んでいます。

柔道療育とは、柔道を発達支援の文脈で用いる一連の活動を指し、放課後等デイサービスを中心に実施されています。本発表では、注意欠如・多動症や自閉スペクトラム症などの神経発達症やその特性をもつ子供たちに対して、柔道が発達支援として機能しうることを紹介します。「格闘技特性を通じた近距離での対人コミュニケーション」である柔道は特徴のある子供たちにとって、社会性（挨拶や順番、約束を守ること）を育んだり、衝動性（とっさに手が出たり、動いてしまうこと）の抑制につながる可能性があります。また、放課後等デイサービスでの実践や指導者への聞き取りから整理してきた「柔道療育」の枠組みを紹介し、支援の工夫や安全面の配慮、今後の研究課題についても報告します。